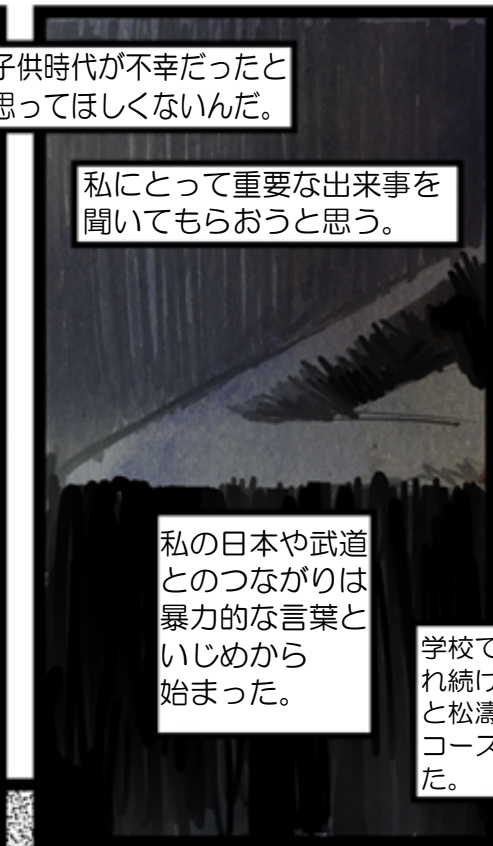




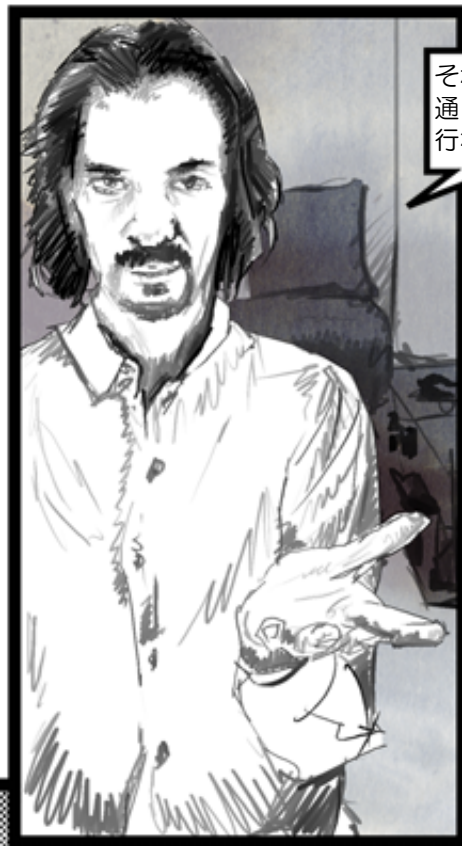
私の子供時代が不幸だったとかは思ってほしくないんだ。



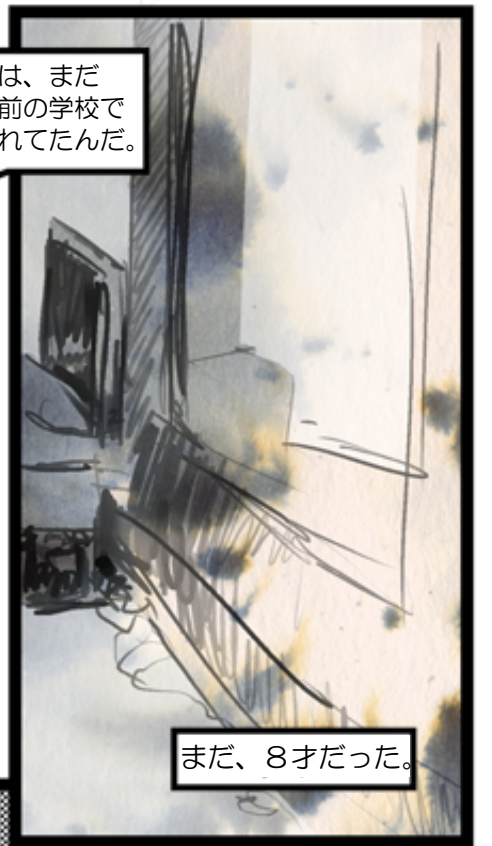
私にとって重要な出来事を聞いてもらおうと思う。

私の日本や武道とのつながりは暴力的な言葉といじめから始まった。

学校で何年もいじめられ続けた結果、父は私と松濤館空手の初心者コースに行くことにした。



それは、まだ通う前の学校で行われてたんだ。



まだ、8才だった。



8年間空手を練習していた間、武道の映画を見たり、違う武道を試したりした。そして弟も私たちの仲間に入った。

高校も終わりに近づいたころ、父は稽古をするのをやめ、弟の興味も薄れ、私も一級の審査に落ちてほどなく、稽古に行くのをやめてしまった。

私はいくつかの型の審査会で優勝した。そのトロフィーはまだ母親の食器棚に飾ってあるよ。



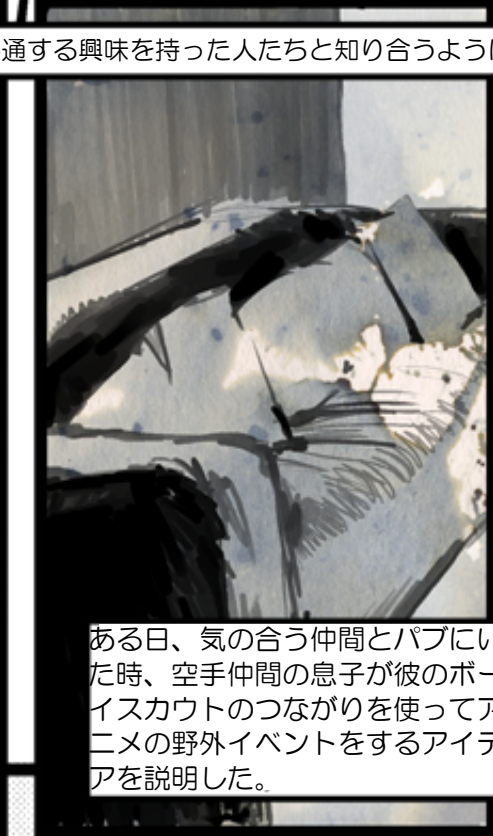
私は、理系よりも文系の方が成績が良くてそっちに進んだ。

コンピューター雑誌でアキラというアニメに出会い、衝撃を受けたんだ。アニメをもっと探しているうちに、漫画の翻訳版をいくつか見つけた。

大学の時、最高のストーリーとすごい芸術性を兼ね備えた、私を満足させる欧米の漫画家たちのことも知ったんだ。



故郷に戻り就職した時、私自身と共通する興味を持った人たちと知り合うようになった。



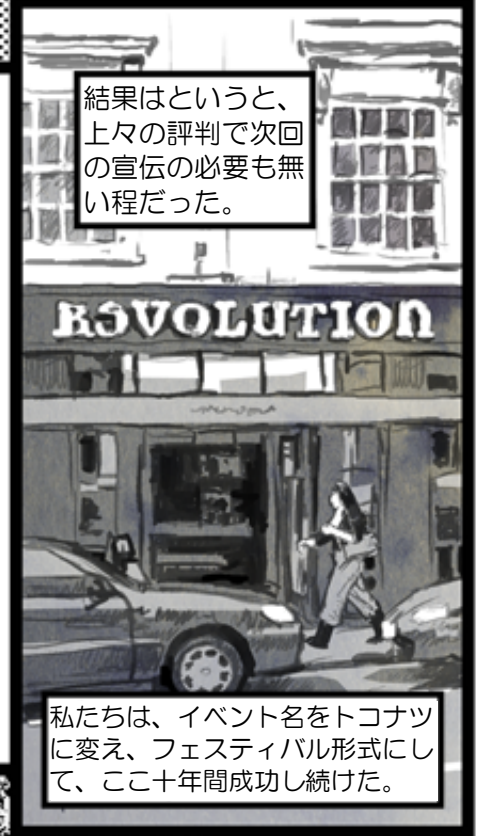
ある日、気の合う仲間とパブにいた時、空手仲間の息子が彼のボーイスカウトのつながりを使ってアニメの野外イベントをするアイデアを説明した。



そこにいた皆がすごくいいアイデアだと思った。そして、皆それぞれの特技を使って彼に協力することになった。

ワイルダーコンと呼ぶことになったそのイベントは、小規模でローカルだったけど、すぐにダメになった。

イベントの2週間前に財務担当者が参加費を持逃げしたんだ。そして、残った私達は自分のポケットマネーでイベントをやった。



結果はというと、上々の評判で次の回の宣伝の必要も無い程だった。

私たちは、イベント名をトコナツに変え、フェスティバル形式にして、ここ十年間成功し続けた。



私はトコナツで本当にたくさんの友人達に出会えたし、その中には合気道や真剣道をやっている人もいた。

一人の参加者が合気道の基本技をいくつか私に見せてくれた。しばらくして、彼の家の部屋を貸してもらって初めて正式に合気道のクラスに参加したんだ。

数か月練習した後、また故郷に戻り、合気道の練習からは離れてしまった。

しかし、私の武道に対する情熱は消えなかった。



そして大学の一般開放のアフターファイブ合気道クラスのパンフレットを図書館で見つけた時、もう迷うことはなかったね。

合気道を楽しんでもう何年にもなるけど、この寒い時期の小さな楽しみの一つになっているよ。

父や学校の不良達に感謝すべきかどうかは、今はもうそんなに重要とは思わない。



これが今の私さ。